



PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート（第 34 回）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2026 年 2 月 15 日（日）10:00-11:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：6 名（ディベーター 2 名、ジャッジ 1 名、見学 3 名）

ディベートの様子

今月のキーノートディベートの論題は、“**Women-only programs bring more benefits than harm.（女性のみが出演する番組は、害よりも利益をもたらす。）**” でした。

肯定側は、女性限定の環境がもたらす心理的安全性や参加のしやすさを重視し、女性が能力を発揮する機会を拡大する効果があると主張しました。女性のための場を設けることがエンパワーメントに資するという観点も示されました。

一方、否定側は、性別による区分そのものが新たな分断や不公平を生む可能性を指摘しました。女性限定とすることで、かえって男性やその他の性別の人々を排除する形になり、長期的には社会全体の平等の実現を妨げる恐れがあると論じました。

ディベートでは、短期的な格差是正策としての有効性と、長期的な社会的影響とのバランスが主要な争点となり、参加者は具体例を挙げながら活発な議論を展開しました。



ディベートの様子

ディベートのフィードバックのあとは、キーノートレクチャーの時間です。今回のキーノートスピーカーは、テレビ朝日報道局および ABEMA「わたしとニュース」プロデューサーの溝上由夏氏でした。



キーノートスピーカーの紹介



キーノートレクチャーの様子

溝上氏からは、報道の現場におけるジェンダー課題や、女性が意思決定の場に参画することの重要性について、具体的な経験を交えてお話しいただきました。メディア業界においても女性の管理職比率が依然として低いことや、働き方・評価制度・無意識の偏見など複合的な要因がキャリア形成に影響を与えている点が指摘されました。

また、女性限定の研修やネットワークが持つ役割についても触れられ、同じ課題を共有する人々が安心して意見交換できる場が、自己効力感の向上やリーダー育成につながる可能性がある」と述べられました。レクチャー後の質疑応答では、教育現場や職場での具体的な取り組み、制度設計の在り方、世代間の意識差などについて多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。



キーノートレクチャーの様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・キーノートからの参加でしたが、とても興味深い話で面白かったです。ありがとうございました。
- ・ディベートから溝上先生のご講演、質疑応答まで、全てとても面白かったですし、考えさせられるテーマでした。現状の男性ばかりのニュース番組が多いのに対して、女性だけの番組を立てることはとても自然かつ有効な発想だと思います。それにもかかわらず、その番組に多くの批判コメントが出るのが予想できてしまうのも、実際にそうなのも、なにか不条理さを感じました。批判している人たちは、男性のみの番組が報道されていることに対しては、批判しないのでしょうか。対話を通して建設的かつ平和的に問題を解決することが生ぬるいのかの如く、人々が互いに責め合う社会になってきているのが本当に残念で不安です。とても素晴らしいご活動で、率直に応援させていただきたいと思いました。
- ・アルゴリズムの現状や番組制作のリアルなど、全て興味深く、とても楽しかったです！